

一宮西高

同窓会報

第十三号

一九九六年七月一日発行

平成八年度同窓会 総会を前にして

同窓会副会長 小川健一



同窓会会員の皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、おかげさまをもちまして今年度の同窓会総会も八月十一日(日)、一宮平安殿において開催される運びとなりました。卒業以来各界・各分野において活躍中の皆様方にあつては、社会の中で重要なポジションに、そしてまた重責を担つておられる方も多いおられますこと思います。そして、そんな方々にあつては、組織のつながりだけでなく横のつながりの大切さを痛感されることは多くあるのではないかと感じます。

(一) 今年度の母校は、昨年度より一クラス減りまして、一年から三年まで各八クラスの計二十四クラスとなりました。これはもちろん生徒数の減少に伴うもので、一クラスの定員も、昨年度の一年生から四十名となりました。その結果、在籍生徒数も本年度はついに千名を割ることとなつてしましました。

平成八年度同窓会総会のお知らせ

● 日 時 八月十一日(日)午後五時より

● 場 所 一宮平安殿

● 会 費 五千円(学生は三千円)

同封の葉書きで出欠をお知らせ下さい。一宮駅オーラシマ前か

ら四時半にバスがでますので、ご利用の方は出欠ハガキにご記入下さい。

(三) 母校の部活動が極めて活発で、優秀な成績を修めていることは周知のことと思いまます。昨年度は「高校総体尾張支部予選」の男子団体総合で、母校は優勝を勝ち取りました。これは三年ぶりのことですが、方々あるいは級友、先輩、後輩とのコミュニケーションをはかることも非常に意義のあること思います。どうか、こぞってご参加いただきますよう、よろしくお願いします。

さてここで、母校の近況について三点ほど報告しておきたいと思います。

(一) 母校の校舎は、建設後約三十年を経てだいぶ老朽化しているため、平成四年度以降、その改修工事が進行しています。まず中館の改修が三年がかりで行われ、平成六年度をもつて終了しました。続いて昨年度は本館(管理棟)の改修が行われ、内装・外観ともリフレッシュされ、玄関の外壁に掲げられた母校の校章が一段と映えるようになりました。そして今年度は、理科の実験室などのある北館の改修が行われることになっています。毎年の工事は在校生諸君にとっては迷惑かも知れませんが、私たちのかつての学び舎が伝統を保ちながら、輝きを増していく姿はうれしいものです。もし機会がありまつたら、是非とも今の母校の姿をご覧いただきたいと思います。

話は総会に戻します。前にもお話ししたことがあります。ここ数年総会への参加者がやや少ないため、関係者一同寂しい思いをしております。我が母校は開校三十年を過ぎ、人間でいえばやつと一人前に、そしてこれから本当に充実してゆく大切な時期



にあるように思います。築かれつつある伝統にさらに磨きをかけ、胸を張れるものにするために、会員の皆様方のご協力が不可欠のものと考えております。総会に多数の方が参加することで、同窓会活動に今まで以上の活力を吹き込んで下さることを期待しております。

昨年度の総会報告

平成七年度の総会は、八月十三日（日）午後五時より、一宮平安殿を会場に開催されました。地元・一宮で総会を催すのは、平成四年度以来、三年ぶりのことです。当時は例年同様、真夏の太陽が照りつける暑い日でした。会は傍島章介副会長の開会宣言に始まり、山内進同窓会長のあいさつ、母校現校長の安藤浩昭先生のあいさつ、来賓を代表しての加藤十八先生のあいさつと続きました。ついで山内会長を議長として議事に移り、事務局から平成六年度の事業報告・会計報告がなされ、それぞれ承認されました。さらに事務局から会則の改正に関する提案も行われ、これも承認得ました。今回の会則の改正は、同窓会役員として「庶務」を新設して「事務局の代表をあてる」と定めたこと、また従来「事務局は母校に勤務する会員によって運営する」と規定されていたものを、「事務局は母校の現教職員若干名によって運営する」と変更したことの二点でした。その後、平成七年度の役員の選出に移り、前年度の役員全員の留任と、新たに「庶務」として事務局の山内清生を選出しました。次に再び議事に戻り、事務局からの平成七年度事業計画・予算案の提案がそれぞれ承認され、議事が終わりました。

今回の総会には、ご多忙にもかかわらず旧職員九名、現職員十四名の先生方に出席していただきました。あらためて厚く御礼申し上げます。また一般会員については、別項にありますように、全日制第九回卒業生が今回の総会の中で学年同窓会を企画し

たことから、出席者数が底上げされ、全部で八十四名を数えました。

総会後半の懇親会は、別室に会場を移し、五時四十分、小川健一副会長の開会宣言で始まりました。会場は最初からなごやかな雰囲気に包まれ、柘植敬一郎先生の乾杯の発声とともに、出席者は会食に移りました。各テーブルでは師弟入り混じってなつかしい高校生時代に思いを馳せ、しばし時間の経過を忘れるひとときでした。歓談に酔いしれ、旧交を温めること一時間半あまり、最後は「尾張野のくぬぎ林に春の日の光あまねし……」と始まる母校の校歌を合唱し、林幸男先生のご発声による万歳三唱で締めくくって、平成七年度の同窓会総会は盛会のうちに幕を閉じました。

例年、同窓会の総会というと、参加を尻込みするという人が多いようです。しかし、今回のように並行して学年単位の同窓会を開くこともできますので、たくさんのお友に出会う好機として積極的に活用していただたらと思います。

昨年の同窓会総会にあわせて9回生の学年同窓会を行い、七十名弱の参加がありました。なにせ卒業してから二十年ぶりの再会であり、お互いに名前と顔がマッチしないこともあります。それでも、同じ釜の飯を食った仲だけに昔の話に花がいっぱい咲きます。バスケット部の女子（現在は女子という言葉は合わないかな？）は、久しぶりに全員が揃ったということで一段と華やいだ感じを受けました。高校時代の今だから語れる話、子供が高校生になってしまった話、仕事における様々な話など年齢を感じさせる話題も豊富でした。特に、「我々の高校時代と今の高校生との違いがありに大きくてね、西高でもわからないうわ。」と言われた時、思わず比較できる差でないことに気づいてしまったのでした。

二次会はカラオケへ行き、修学旅行で歌つたフォークソングをいつきに歌いまくりました。現在の西高は、関西方面へ四クラスづつ二班に分かれ逆回りコースで出かけています。我々の時は、八クラスで信州方面でした。ハイキングやキャンプファイヤーをしましたが、誰かがいつもギターを持っていました。三次会は喫茶店で酔いをさまし、楽しい懐かしい会が終りました。

私は、幸いなことに現在、一宮西高校に勤務しています。高校時代と変わらないような生活を送っていますが、昔の友と合うことがあまりないのですが、昔の友と合ふとやはり感激があります。「たまには同窓会もいいものだなあ。」と思い、今度は何時にもようかなと考えています。同窓会総会と並行して行いましたが、気軽に楽しく行き、良い方法ではないでしょうか。九年生のみなさん、またの機会を楽しみに、ぜひご参加下さい。それでは、お元気で！

塙本義光（九回生）



第六回生

学年同窓会報告

私たち全員制第六回卒業生は、今年一月三日（水）正午より、一宮市内の「江美」を会場として学年同窓会を実施しました。私たちは昭和六十一年以来、五年おきに学年同窓会を開催することにしており、今回は平成三年について、三回目となります。

過去二回と同様に、今回も永井清澄君の呼びかけで有志幹事が集まり、昨年七月に最初の幹事会をもち、十月に往復はがきで恩師の先生方と同級生全員に案内を発送しました。私たちは学年同窓会開催の時期を年始と決めているのですが、過去二回が正月三が日を過ぎてから開催したのに対し、今回は、正月に地元に帰省してくる人に配慮して、三が日の中に期日を設定しました。この期日の設定には、長一短があつて、毎回苦慮するところです。

今回は、恩師として後藤幸男先生、永田敬三先生、森藤水直先生にご出席いただきました。一方、同級生の参加は五十五名でした。第一回の出席者が恩師・同級生を合わせて七十名、同様に第二回の出席者が七十三名だったことを考えると、今回はやや出席者が減少してしまいました。正月三が日だからこそ出席できないという方が多かったのかかもしれません。

会はいつも通り、有志幹事を代表しての永井君のあいさつに始まり、三名の恩師の先生方からのあいさつ、そして記念写真の撮影と進み、ついで内田幸彦君の発声で乾杯をして、会食へと移りました。中には、高校を卒業して間もないころに実施したクラス会の出欠はがきをまとめて持参してくれた人もいて、大変なこやかな雰囲気のう

ちに思い出話に花が咲きました。自分でまだ若いつもりでも、高校を卒業しては二十四年。中には子どもが高校生かそれ以上という人も。高校時代の面影を残しながらも、皆おじさん・おばさんになつてしましましたが、この時はやはり青春時代へとタイムスリップ。まさに夢のような気分でした。またたく間に予定の三時間が過ぎ、最後は恩師の先生方に記念品を贈呈し、校歌を高らかに歌い、森藤先生のご発声で万歳三唱をして閉会となりました。

ところで、この学年同窓会は前述の通りこれまで五年ごとに実施してきたのですが、三月の有志幹事会では、五年ごとではなく、オリエンピックイヤーに合わせて四年ごとに開催した方がわかりやすいという意見が出て、次回は平成十二年に開催することに決まりました。またその前年の秋に全員に案内を出しますが、今回ご都合が悪かつた方も、次回は是非とも参加していただけ、一緒に楽しいひとときを過ごそうではありませんか。

ラグビー部は昭和四十八年に創部されから、今年で二十四年目を迎えました。OB会員も三六〇名にもなり、歴史の若い学年OB会については、昭和五十五年一宮高校との定期戦の初年度にあたって発足しています。本来OB会の活動は、OB会員相互の親睦と現役部員への支援が主たる活動であると思っていましたが、今一つまとまりにかけていました。さらに悪いことに、

一宮高校との定期戦が学校の教育上の行事で試合日程が組めなくなり、平成六年度から廃止になつたことです。OB会員の集まる機会がなくなり心配されました。幸いにも平成六年から一宮ラグビー協会のお手折りで、一宮市民ラグビー大会が開催されることになり、OB会員の集まる機会が復活し心配もなくなりました。

この大会も今年で第三回目を迎えるましたが、本校OBは、第二回、第三回大会の社会人の部で優勝の栄光に輝いています。最後に、この大会を足掛としてOB会が組織化し、活性化することを期待していま

ラグビー部OB会 前顧問 棚橋 旭先生

と反論したら、毎年退職した先生にお願いしているとの返事、ああそつか、おれは退職したのかと我にかえの昨日である。

卒業生の皆さんには申し遅れましたが、今年三月三十日を以つて三十八年間の教員生活を終ることが出来ましたことを報告させて戴きます。

三十八年間を振り返つて感じていることは、いかに学校改革や学校体制が変わったが、これまで五年ごとに実施してきたのでは、いかに教員生活半分の十九年間お世話を担当する機会がなくなり心配されました。

西高には教員生活半分の十九年間お世話なり、感慨に深いものがあります。

特に指導部長時代の十年間が、一番充実していたと思います。指導体制、指導姿勢を変えるため指導室の開放、きびしい指導姿勢でも心をひらく指導を心掛けました。生徒諸君もこの指導に応じてくれました。私にとってはいい思い出になつています。

又、部活動での合宿活動が思い出として残っています。夏休みの暑い最中に校舎での宿泊、先生も生徒も睡眠不足。この合宿に見切りをつけ、自然環境の良い数河高原に合宿を求めたのはラグビー部でした。効果としては、毎年県レベルの成績をこしていること、卒業生諸君（ラグビー部）にはおわかりないと思いますが、生徒の人間的な成長がうかがわれることと私は自負しています。受験体制が進み部活動が低調になりつつある西高ですが、卒業生諸君の支援をお待ちしています。

最後に卒業生の皆さんのご活躍を期待し

ご退職の先生からの

メッセージ

西高での思い出

棚橋 旭先生

卒業生の皆さん「お元気かな!」

先日同窓会係の市田君(昭和五十五年卒)

から卒業生に送るメッセージを書いてほし
いと依頼があり、「何んでおれが書くのか」

学園だより

第三十回生三七七名が同窓会に入会
会員総数は一万二〇二六名になりま
る。

また、卒業生に卒業記念品として証書筒を贈呈しました。

昨年度の同窓会活動報告

同系会議の開催

平成七年八月十三日(月)

旧・現職員、一般会員合わせて一〇七名の参加をいただきました。

2. 「同窓会報」第十一号の発行

3. 同窓会報郵送料金の実施

七名の方にご協力をいただきました。

卓球部の藤谷君の全国大会出場に際

寄贈しました。

十一月十八日(土)に開催されまし

今日は都合により学校側からの出席

いおり三せんてし力

平成八年二月二十九日に実施

大学合格者数一覽

(平成八年度入試)

北海道大	1	名古屋工大	28	名古屋市立大	8	早稲田大	3	名城大	64
金沢大	6	三重大	24	青山学院大	1	愛知大	63	同志社大	5
福井大	5	滋賀大	11	慶應大	2	愛知学院大	53	立命館大	25
信州大	5	京都大	1	駒沢大	1	愛知工業大	58	関西大	1
岐阜大	37	神戸大	1	東京理科大	2	愛知淑徳大	38	関西外語大	2
静岡大	10	大阪教育大	1	法政大	1	金城学院大	22	国公立大学合計	246
名古屋大	25	広島大	1	明治大	4	摂山女学園大	36	私立大学合計	661
愛知教育大	50	愛知県立大	7	立教大	2	南山大	92	公私立短大合計	145

職員の異動

(敬称略)

部活動の成績

高校総体尾張支部予選の結果

30回生年度幹事

郵送料についてのお願い
昨年度は約四十万円のカンバをいたしました。
今年度も引き続き、同窓会報等、郵送料のカンバをお願いいたく存じます。一口一〇〇〇円で同封の振り込み用紙を御利用下さい。

